

N.S. コロトコフの系譜

藤倉 一郎

一期会藤倉病院

N.S. Korotkov は1874年2月13日、Kursk市ミレンスカヤ通り40番地の裕福な商人の家に生まれた。母はAlexandra Mikhailovena、父はSergey Ivanovichである。幼名をコーリヤといい、少年時代あまり健康でなかった。

Kursk 中学を卒業後 Kharkov 大学医学部に入学したが、後に Moscow 大学医学部に転学した。1898年に Moscow 大学を卒業した。卒業と同時に Moscow 大学付属病院の Bobrov 教授の外科教室に入局した。アルバイトをしながら無給医局員の生活をしていた。

1900年北清事変が勃発すると、従軍し赤十字から極東へ派遣された。ここではチフスや外傷性動脈瘤などの治療が主であった。1904年6月日露戦争に際し、再び従軍し上級医師としてシベリアへ出発した。

Harbin の病院で赤十字の看護師である Elena Alexeevna に出会った。シベリア出兵前の Petersburg の記念写真には Korotkov も Elena も写っているが、Harbin の病院で二人は知り合って結婚したのである。Elena は妊娠したが、赴任地の Harbin はごみごみし、遊牧民のような生活で育児には不向きであることは明確であった。

二人は除隊し、1905年4月1日シベリア鉄道で Petersburg にもどった。1905年9月1日、Petersburg で Sergey N. Korotkov が生まれた。Korotkov は1905年末から、陸軍病院に入院し、その後 Kursk の実家で1907年まで療養した。

1908年シベリアの鉱山の医師として療養をかねて働いたり、1910年にはレナ金山にも就職したので、Sergey は母と二人で生活していた。

1914年 Korotkov はペーテル大病院に上級医師として就職し少しの余裕がでてきたが、第一次世界大戦からロシア革命にかけて、生活は窮乏を極め、Petersburg の生活はどん底の状態だった。

Sergey は1920年父が死亡すると母とも別れて養育園で生活することになった。Sergey は1924年体育専門学校を卒業し、体育教師を務めた。

1930年から1931年まで赤軍に任務し、1932年レニングラード医科大学に入学し、スポーツ医学を専攻し1938年に大学を卒業した。

その後ソ連政府の極北の研究所の医師として9年間勤務した。

1941年12月、Elena はレニングラード包囲戦で死亡した。

Sergey は1947年レニングラードに帰り、そこでいくつかのクリニックや病院でスポーツ医学の専門家として働いた。

1970年 Popov 教授が Korotkov の写真を発見して Sergey に渡した。Sergey ははじめて父の写真を見た。

Sergey は1977年に死亡した。72歳だった。